

経営比較分析表（平成28年度決算）

栃木県 岡本台病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,991,597	13,248	非該当	15:1	

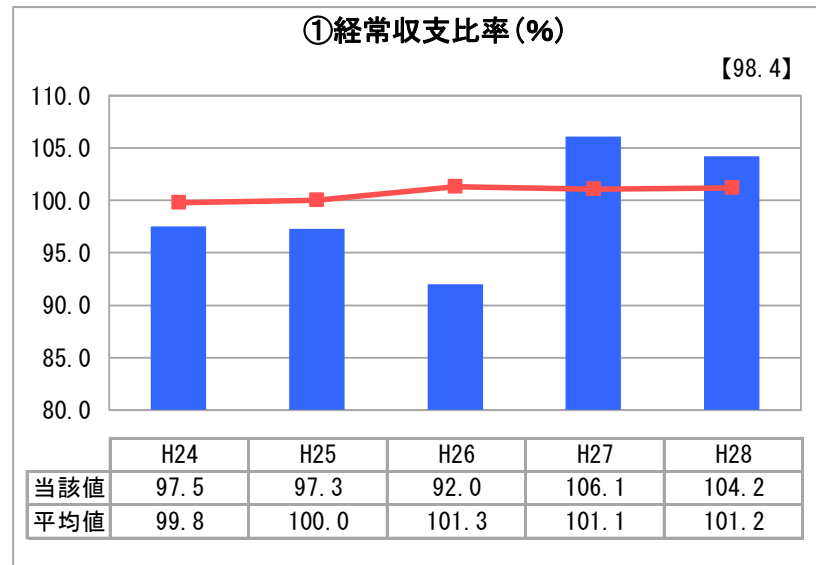
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

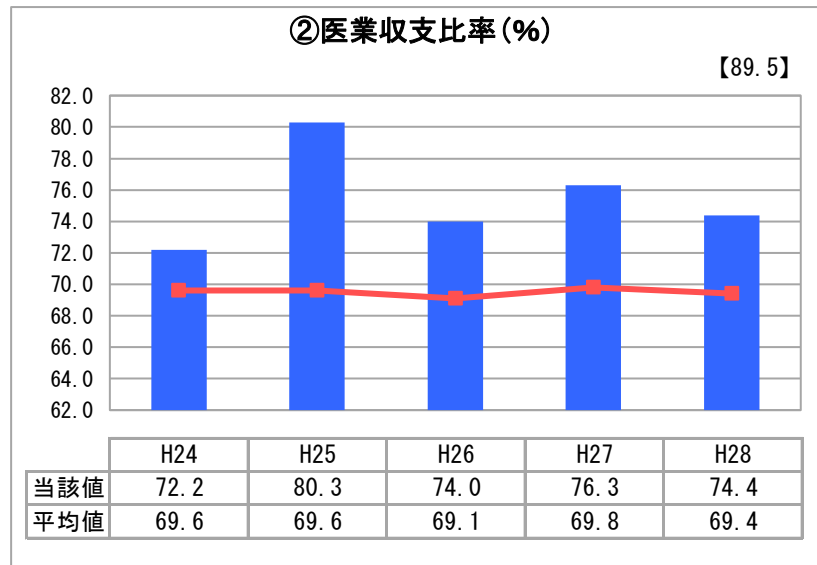
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
221	-	221
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成28年度全国平均

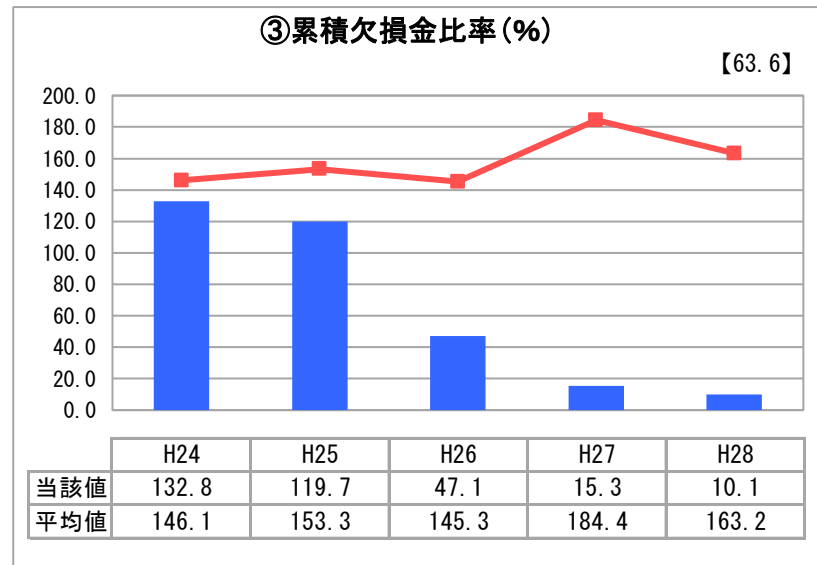
1. 経営の健全性・効率性



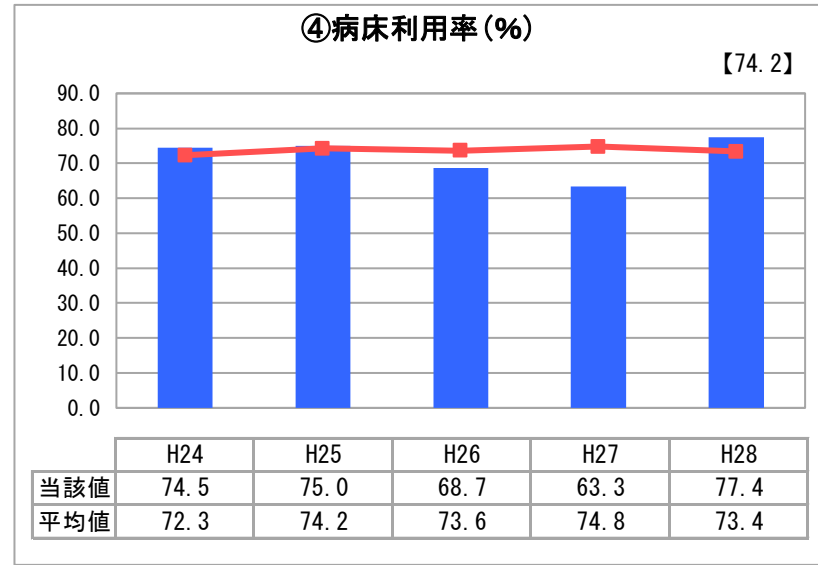
「経常損益」



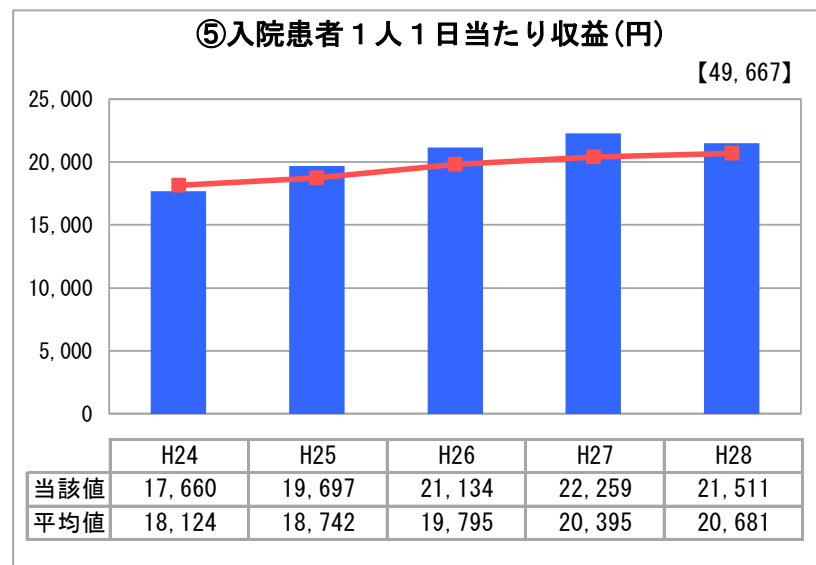
「医業損益」



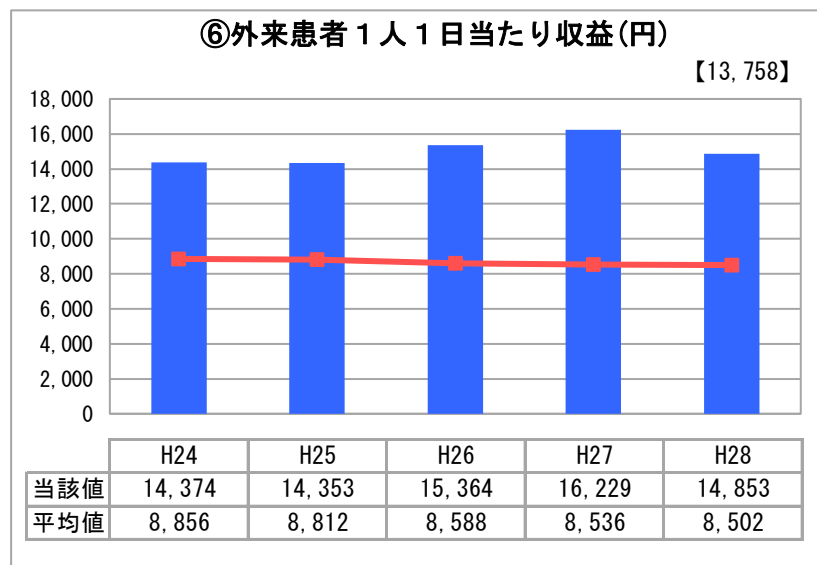
「累積欠損」



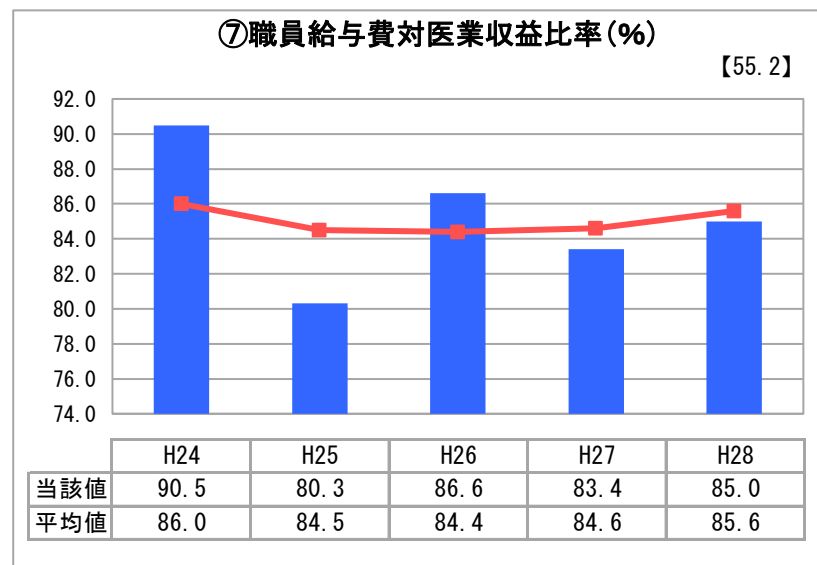
「施設の効率性」



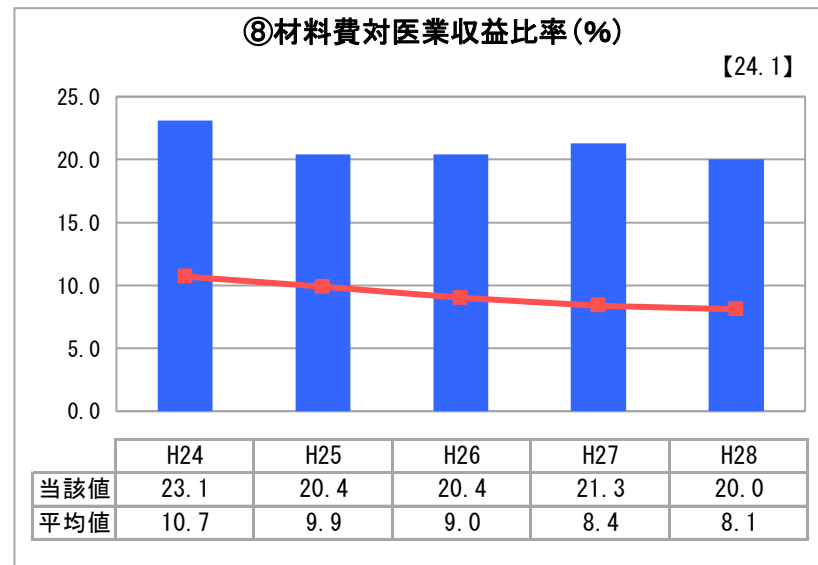
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

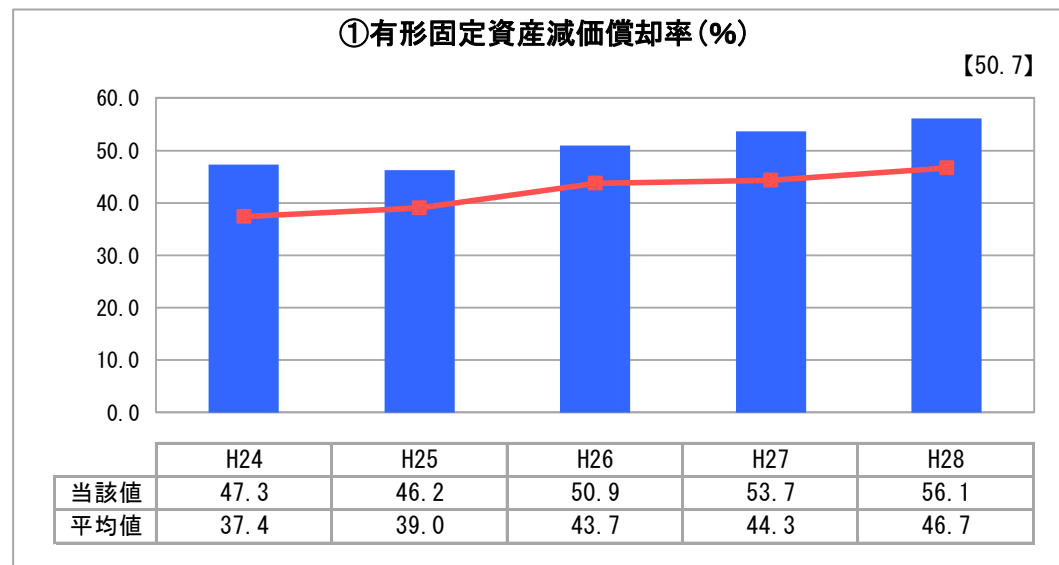


「費用の効率性①」

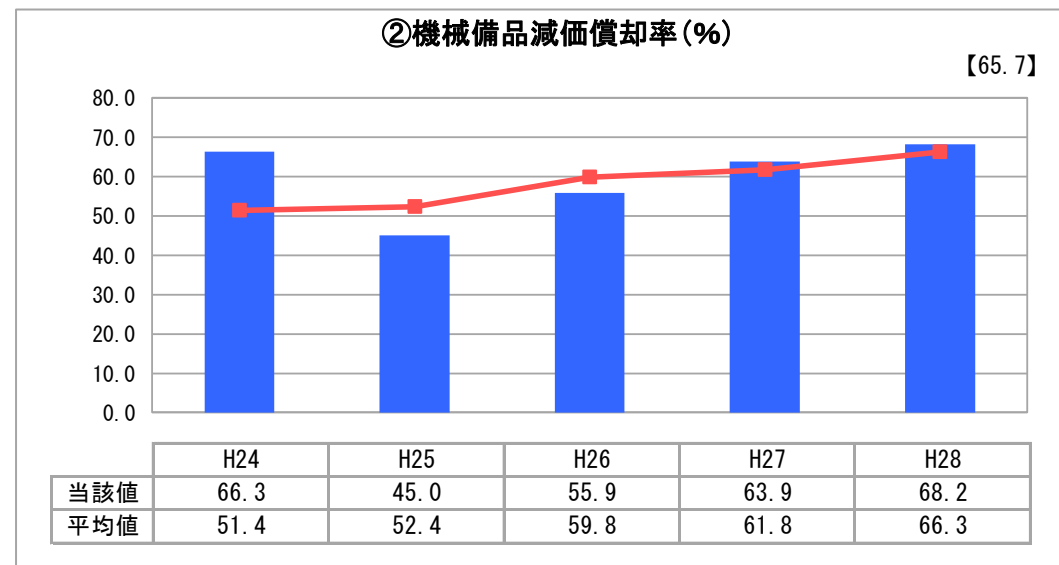


「費用の効率性②」

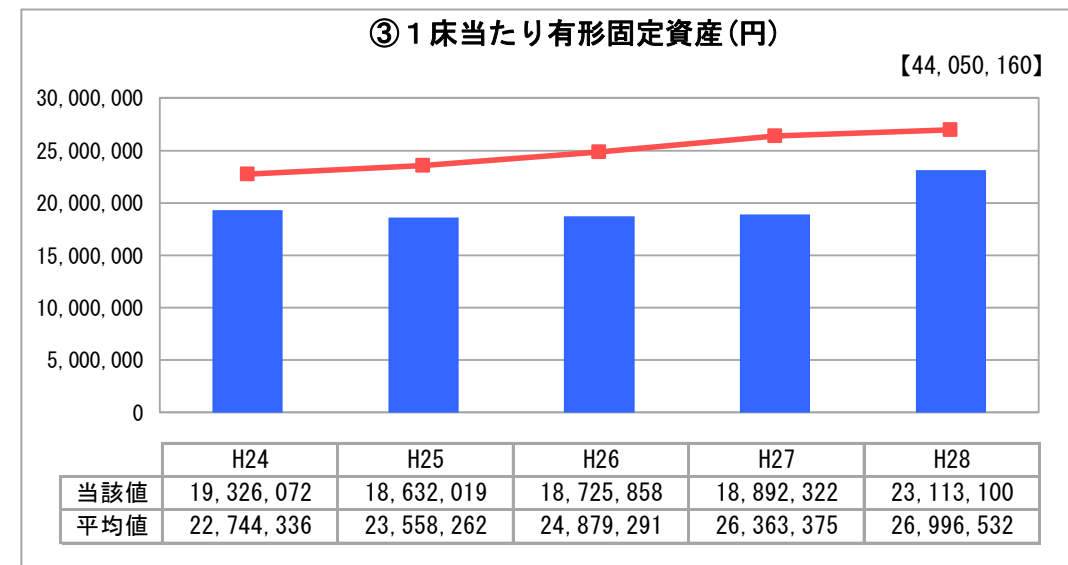
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は、精神科緊急及び救急医療、アルコール・薬物依存症医療、医療観察法医療など、精神疾患に係る高度・専門の医療を担う県の基幹病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
平成27年度以降、100%を上回っている。
- ②医業収支比率
各年度とも類似病院の平均を上回っている。
- ③累積欠損金比率
経営改善により低下傾向にある。
- ④病床利用率
平成26年度及び27年度は、70%を下回ったが、平成28年度には改善している。
- ⑤⑥患者1人1日あたり収益
患者単価は、各年度とも類似病院の平均を上回っている。
- ⑧材料費対医業収益比率
類似病院の平均を上回っている。後発医薬品の積極的な導入により、更なる経費の見直しを図っている。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率
老朽化は進行しており、類似病院の平均を上回っているが、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。
- ③1床当たり有形固定資産
建築年数の経過に伴い、類似病院の平均を下回っている。

全体総括

類似病院に比べ、医業収支比率や病床利用率等の経営状況は良好であるため、経営の健全性は確保されている。その一方で、材料費対医業収益比率が類似病院の平均を上回っていることから、費用の削減に取り組む必要がある。引き続き、経営改革プランに基づき、経営の健全化に取り組むとともに、地方独立行政法人化の検討を進めていく。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

栃木県 とちぎリハビリテーションセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,991,597	13,664	非該当	15:1	

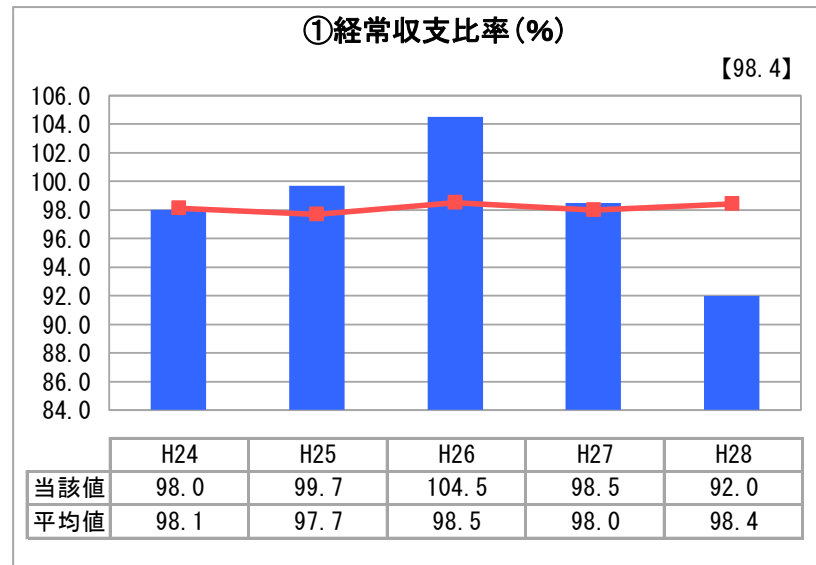
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

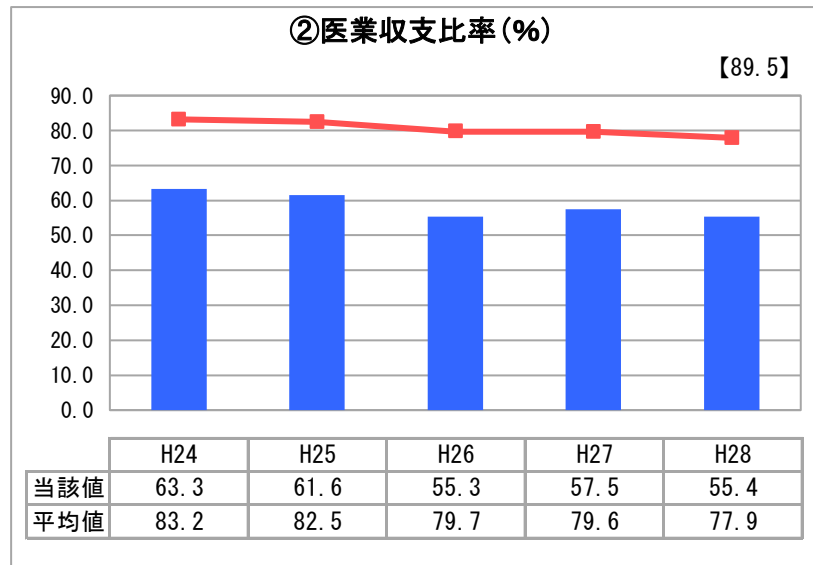
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
80	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	80
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
80	-	80

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成28年度全国平均

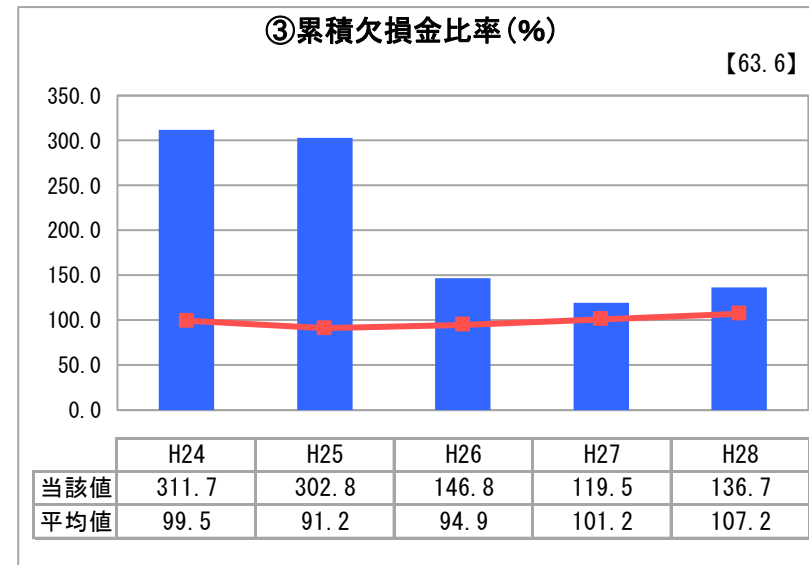
1. 経営の健全性・効率性



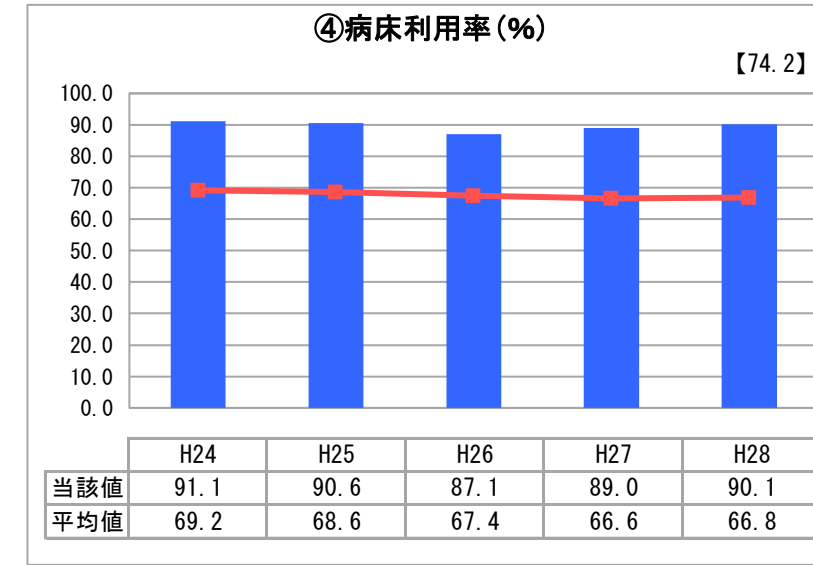
「経常損益」



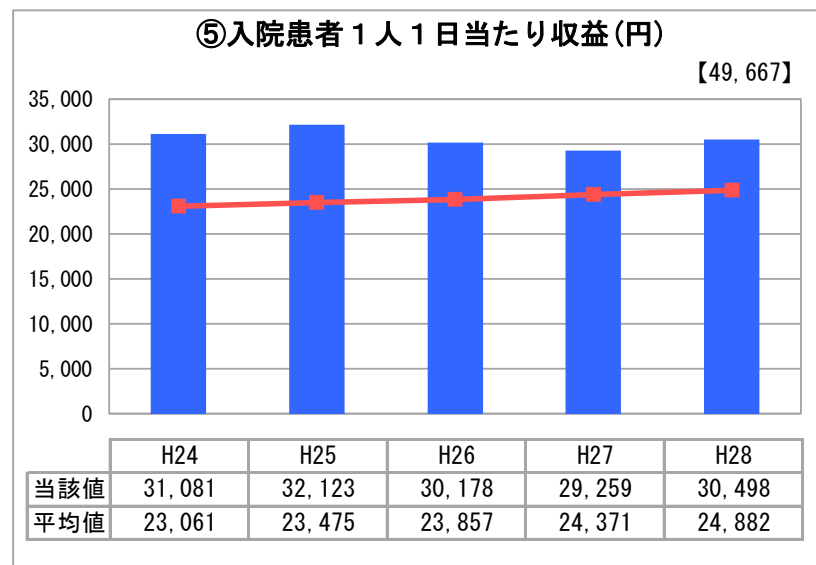
「医業損益」



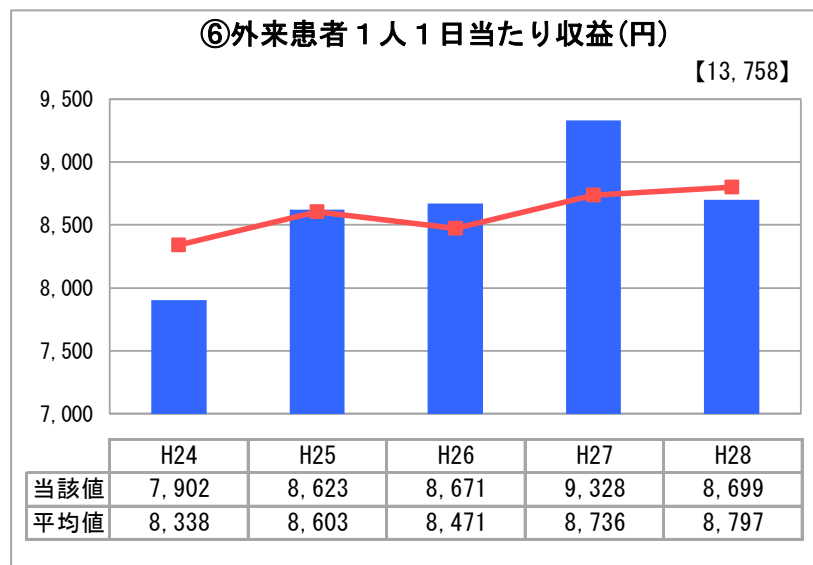
「累積欠損」



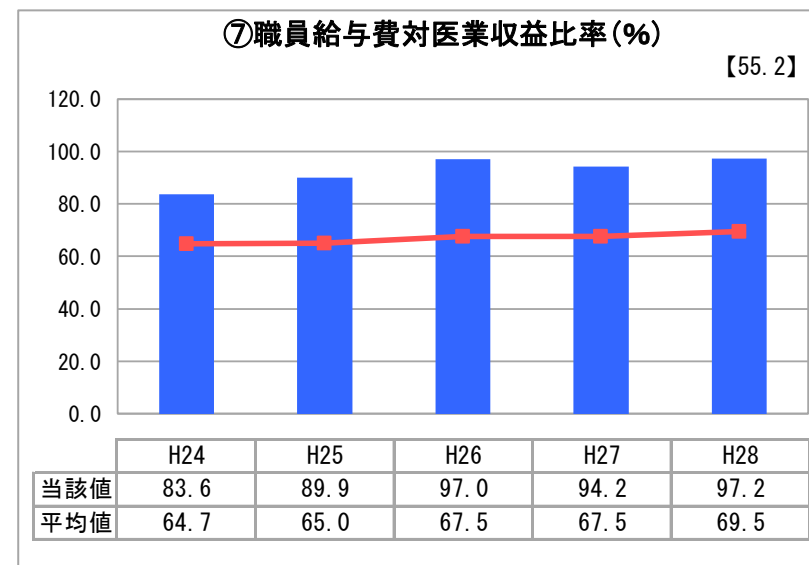
「施設の効率性」



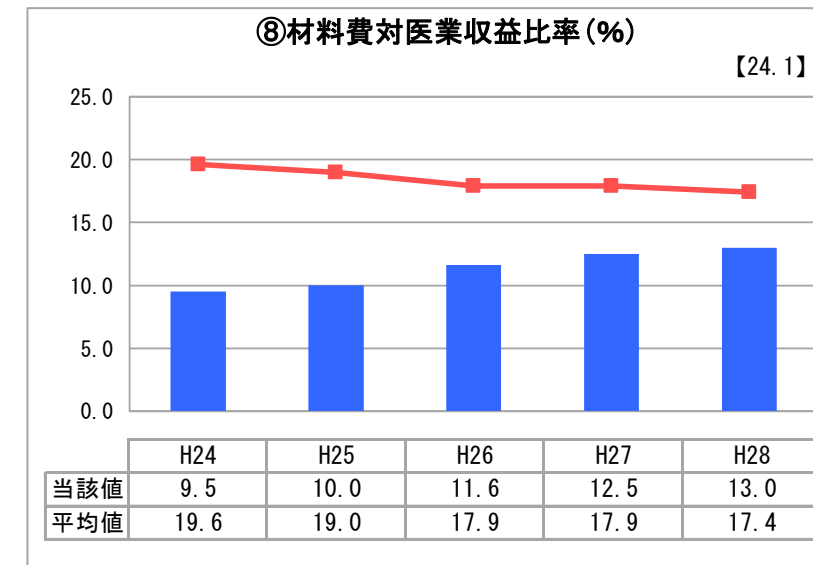
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

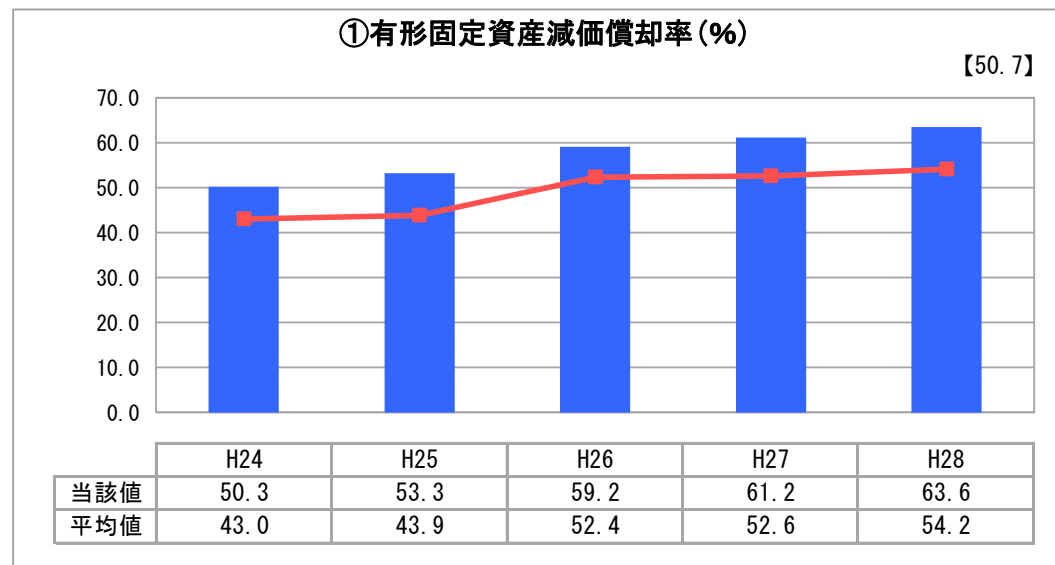


「費用の効率性①」

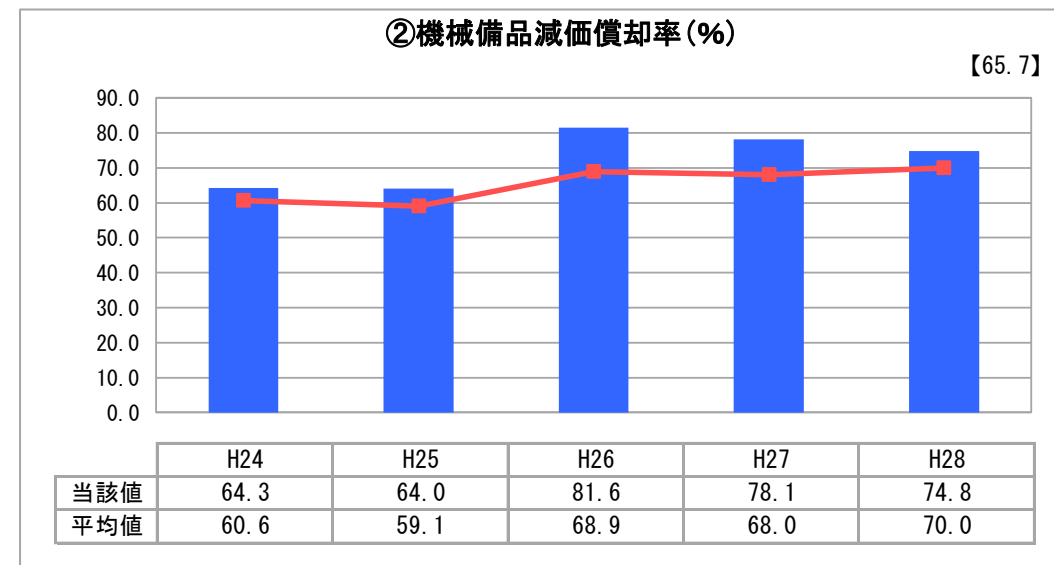


「費用の効率性②」

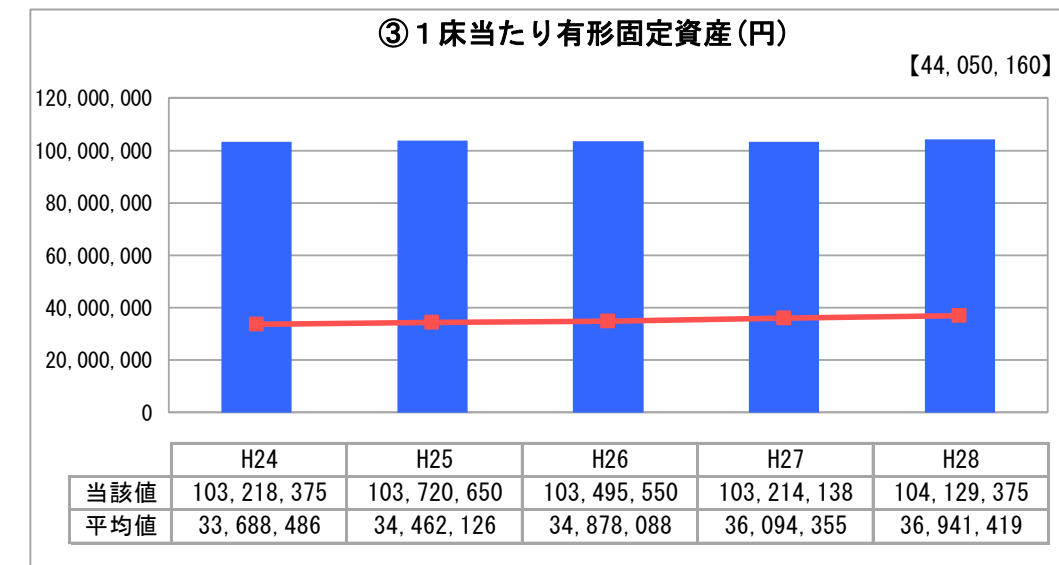
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当センターは、心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の県民に対し、質の高い総合的なリハビリテーションを安定的に提供するとともに、県内における医療及び福祉の向上を図るなど、公的使命を果たしながら心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 医業収支比率
 経常収支比率は100%を下回っており、医業収支比率は類似病院の平均を下回っているため、経営改善に取り組む必要がある。

③ 累積欠損金比率
 平成27年度まで経営改善により低下傾向にあったが、平成28年度は経常収支の悪化により上昇した。

④ 病床利用率
 類似病院に比べ、高水準を維持している。

⑥ 外来患者 1人 1日あたり収益
 平成28年度は診療報酬改定において維持期リハビリテーションの介護保険移行が強化されたこと等により患者単価が低下した。収益に見合った費用とするよう、経費の削減に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 機械備品減価償却率
 老朽化が進行して、類似病院の平均を上回っているが、平成26年度から定期的な設備等点検の結果に基づき、計画的な更新を実施している。

③ 1床あたり有形固定資産
 現在、類似病院の平均を上回っているが、平成30年度に増床するため、低下する見込みである。

全体総括

平成28年度は維持期リハビリテーションの介護保険移行が強化されたことにより、外来収益が減少し、経常収支比率が悪化した。その一方で、病床利用率は類似病院と比べ高水準を維持しており、入院収益は良好である。今後外来収益の増加を見込むことは困難であるため、効率的な経営を行う必要がある。

また、平成30年度の地方独立行政法人化及び病床数の増により、収益性を高め経営の健全化に努める。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立がんセンター 栃木県立がんセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	I ガ	が
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	40,068	非該当	7：1	

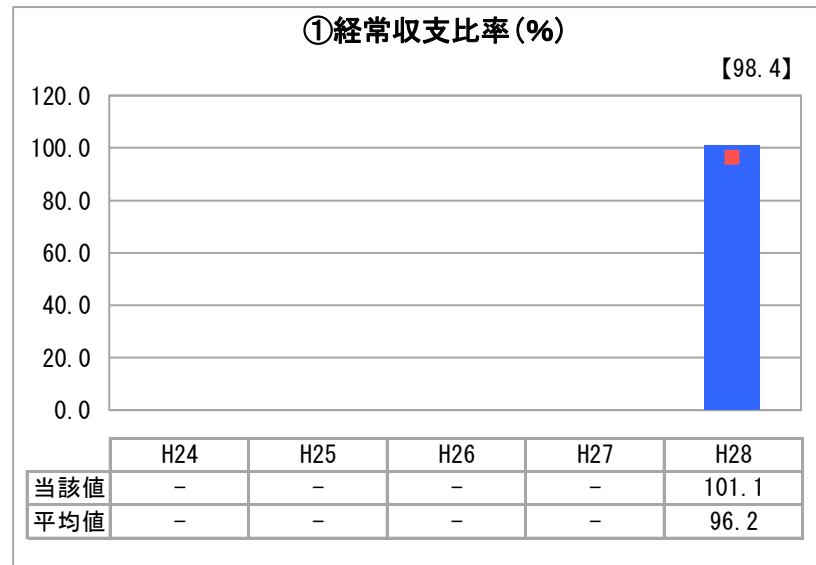
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
291	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	291
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
291	-	291

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
【】	平成28年度全国平均

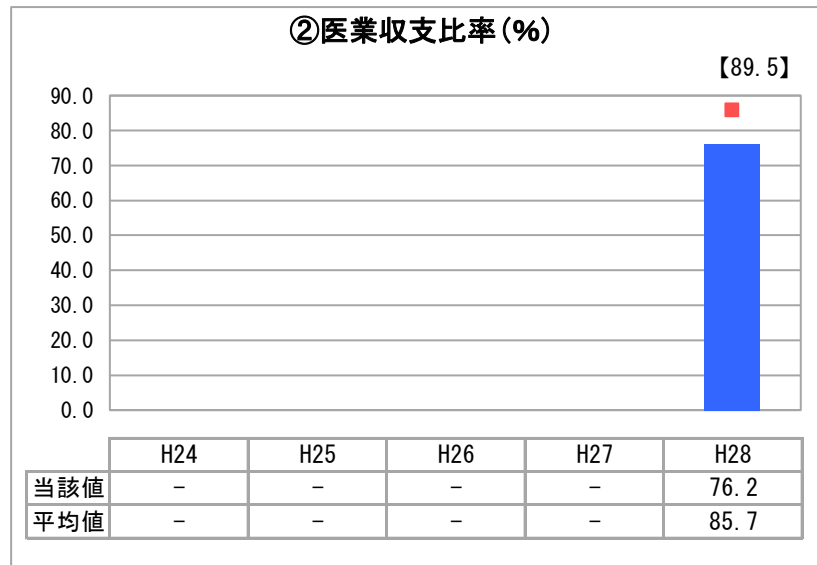
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

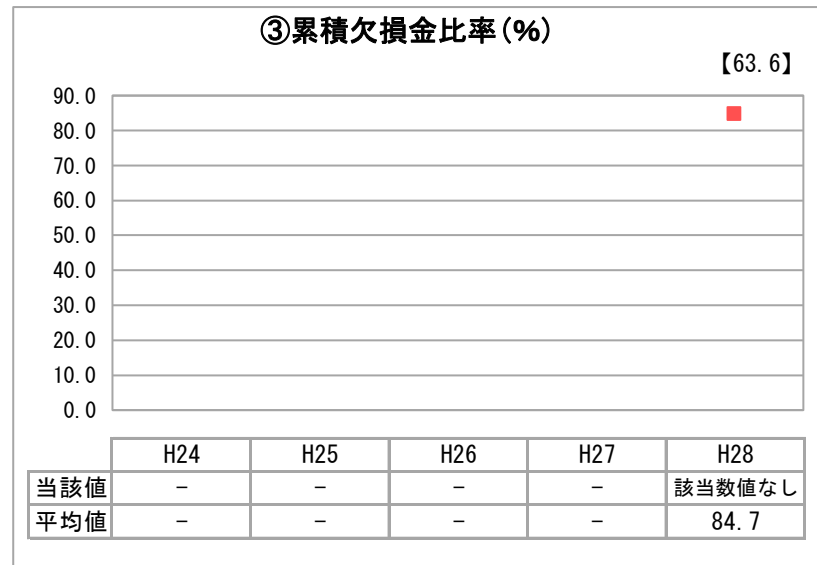
1. 経営の健全性・効率性



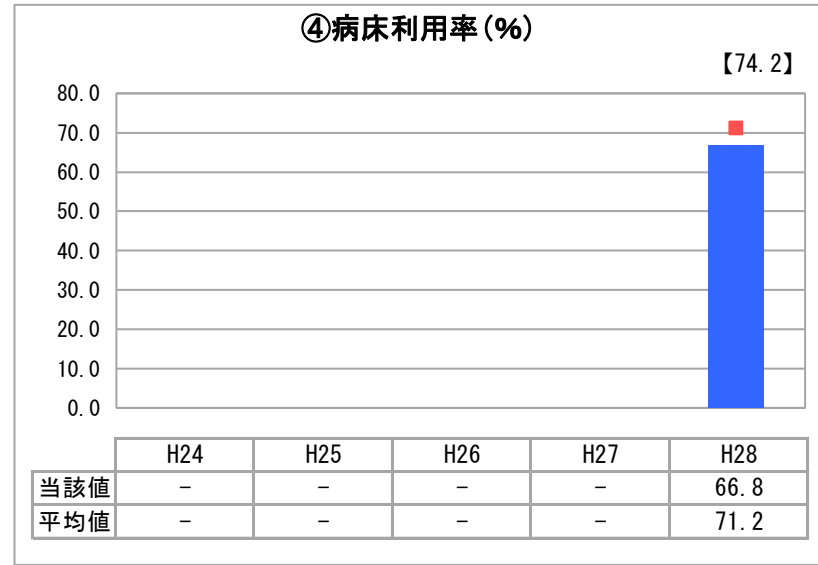
「経常損益」



「医業損益」



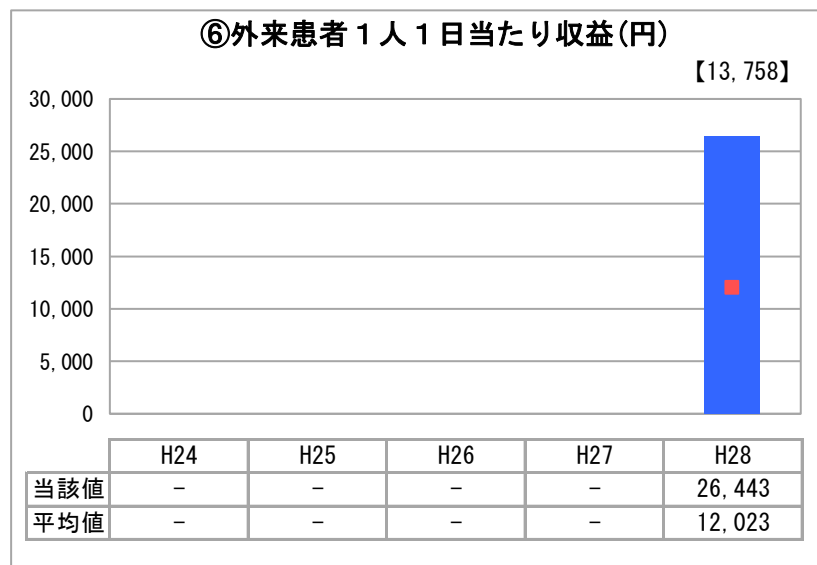
「累積欠損」



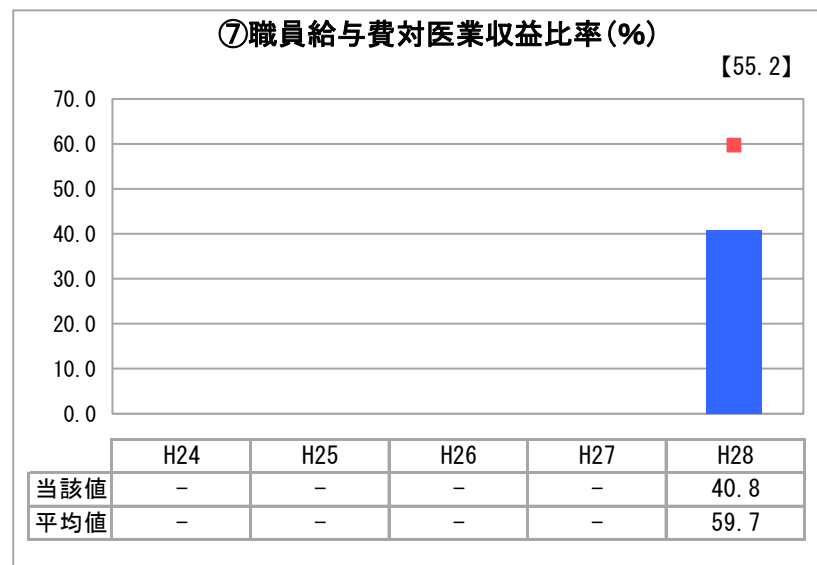
「施設の効率性」



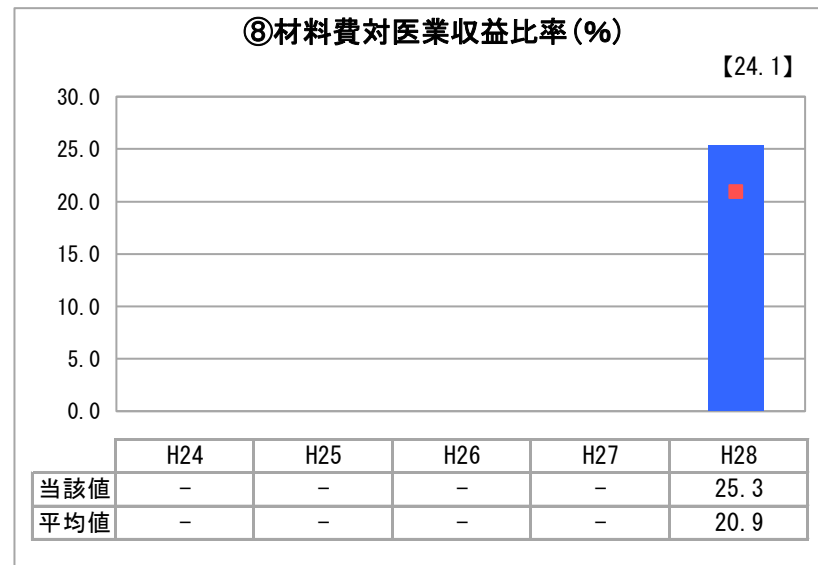
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

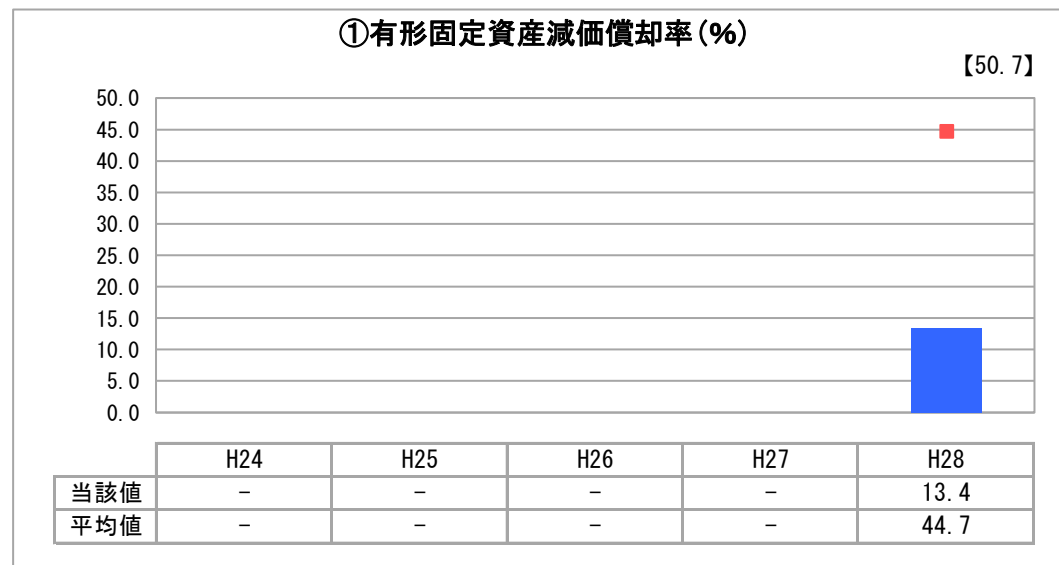


「費用の効率性①」

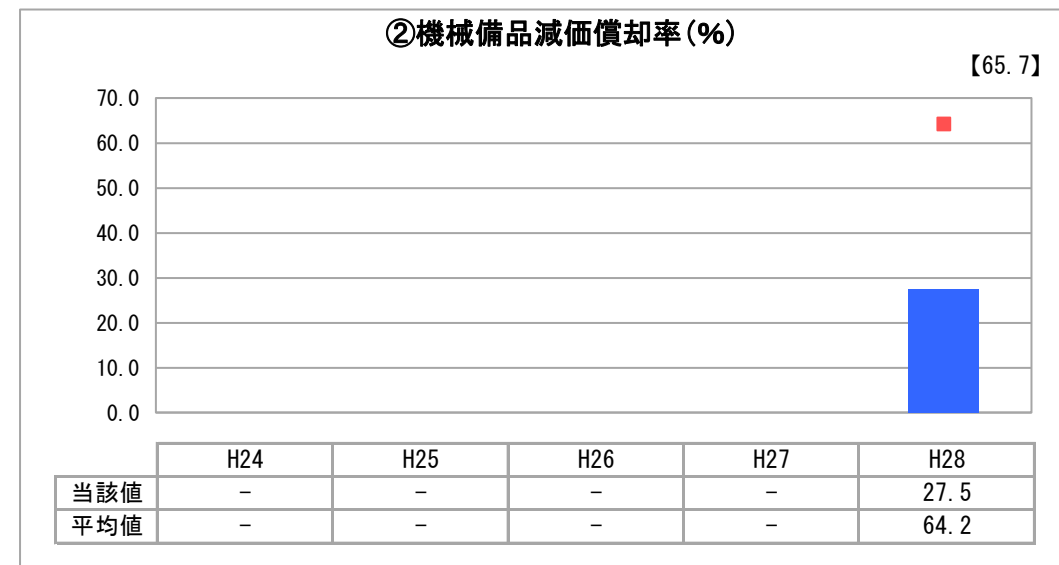


「費用の効率性②」

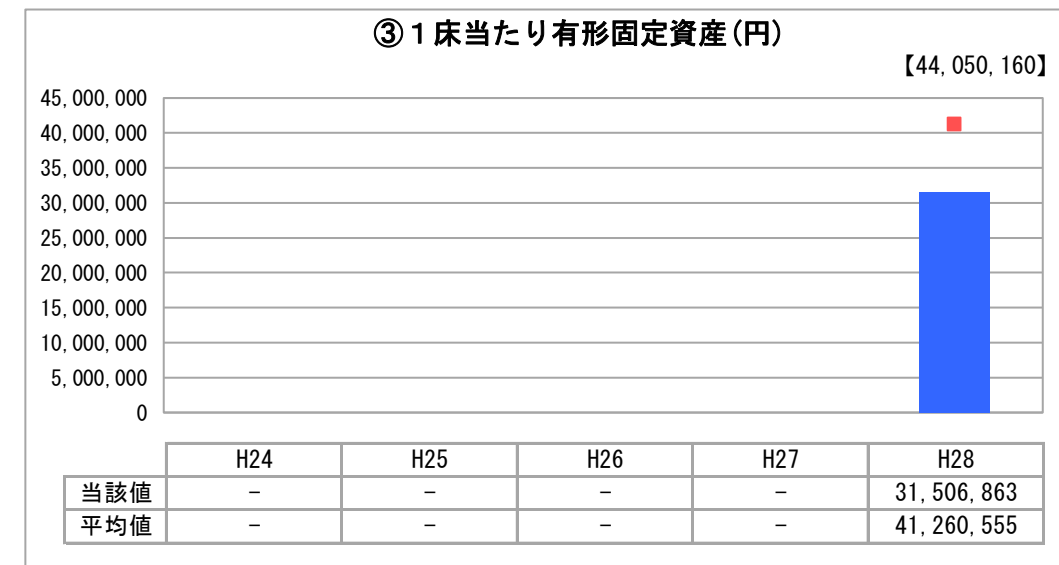
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当センターは、県民が求める高度で専門的ながん医療を安定的に提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として県内における医療水準の向上・均てん化を推進するなど、公的使命を果たしながら県民の健康を確保及び増進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、③ 累積欠損金比率
経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金は発生していないため、経営の健全性が確保されている。

② 医業収支比率、④ 病床利用率
類似病院の平均を下回っているため、入院患者を確保し入院収益の増に努める必要がある。

⑤⑥ 患者1人1日あたり収益
患者単価は、高額医薬品の使用量の増に伴い、類似病院の平均を上回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率
平成28年度に地方独立行政法人化したため減価償却率は低水準にあるが、老朽化は進行しているため、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。

③ 1床あたり有形固定資産
建築年数の経過に伴い、類似病院の平均を下回っている。

全体総括

地方独立行政法人化初年度の平成28年度は、経常収支は黒字であるが、医業収支比率及び病床利用率が類似病院の平均を下回っていることから、医師の柔軟な採用など地方独立行政法人の特長を活かした取組により、入院患者の確保等、経営改善に努める必要がある。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。